

大学生・大学院生の学生組織における心理的安全性が職務満足感に与える影響

ーワーク・エンゲージメントによる媒介効果に注目してー

武蔵大学経済学部経営学科 4年

伊藤誠悟ゼミナール

122122 星野拓斗

現代社会は VUCA の時代と称され、将来の予測が極めて困難である。企業が持続的に価値を創出するには、個々の力のみならず、「協調性」や「チームで働く力」が不可欠であり、大学教育においても他者と協調して目的を達成できる人材の育成が強く求められている。その教育的機能において、部活動やゼミナールといった学生組織での活動は、社会人基礎力の醸成やキャリア形成のために重要な役割を担う。本研究は、企業組織で重要性が確立されている心理的安全性とワーク・エンゲージメントに注目した。心理的安全性とは対人関係のリスクを恐れず安心して意見表明できる状態を指し、ワーク・エンゲージメントは活動への活力や熱意、没頭を意味する。本研究の目的は、多様な学生組織における心理的安全性がパフォーマンス、職務満足感、ストレスに与える影響を解明し、ワーク・エンゲージメントがその過程で果たす媒介的役割を検証することである。

大学生・大学院生 151 名を対象に調査を実施し、各尺度を用いて測定した。収集データに対し、因子分析、相関分析、およびブートストラップ法を用いた媒介分析を行った。分析の結果、第一に、学生組織において心理的安全性はパフォーマンスおよび職務満足感と正の相関、ストレスとは負の相関を持ち、企業組織と同様の構造が確認された。第二に、媒介分析の結果、心理的安全性が各変数に影響を与えるプロセスには二つの経路が存在することが判明した。行動的成果であるパフォーマンスに対しては、心理的安全性が直接寄与すると共にエンゲージメントを介した影響も認められる部分媒介が示された。一方、心理的成果であるストレスと職務満足感に対しては、心理的安全性の直接的影響は有意ではなくなり、ワーク・エンゲージメントを介した完全媒介のモデルが示された。

この結果は、メンバー間の相互理解や信頼に基づく協調的な環境を整えるだけでは、学生の満足感向上やストレス低下には直結しないことを示唆している。心理的安全性が、チームへの貢献意欲や活動への没頭を引き出す資源として機能して初めて、良好な心理的成果がもたらされるのである。本研究は、自発的なコミュニティである学生組織においても、他者と安心して協働できる基盤が有効であることを実証した。学生の成長と精神的健康を支えるためには、心理的安全性を基盤に据え、個々のエンゲージメントを高める組織

運営が不可欠であるという知見を得た。